

感度とバランスの最新ヤリイカロッド 新登場、メタリアヤリイカ

●イカ釣りファンに絶大な支持を受けた「メタリアヤリイカ」がリニューアルして新登場。感度と強度に優れたメタルトップはそのままに、さらなる軽量化と最新のヤリイカ状況にマッチさせた調子とバランスを実現した。2本継ぎながら継ぎを感じさせないVジョイントα、電動リールにマッチするゼロシートセンターグリップ、X45の搭載によるパワーロスを抑えた抜群の操作性など、攻めのヤリイカ釣りをサポートする専用ロッドの誕生だ。



▲強度と感度のメタルトップ

▲ゼロシートとセンターグリップ採用

アイテム	全長 (m)	継数 (本)	仕舞 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	オモリ 負荷(号)	適合クランプ サイズ	カーボン 有率(%)	メーカー希望 本体価格(円)
82-155	1.55	2	82	138	1.1/13.7	80-150	95	SS	42,500
82-175	1.75	2	92	146	1.1/13.7	80-150	94	SS	43,500
91-165	1.65	2	87	144	1.1/13.7	80-150	96	SS	43,000



シーボグ400J

300番サイズと変わらぬ軽量コンパクトサイズでワンハンド操作も楽らく。PE4号400メートルという糸巻き量は沖のイカ釣りだけでなくマダイや青物などもこなす。左巻き仕様も用意。
◆自重=585g、ギア比5.1、最大ドラグ力16kg、メーカー希望本体価格92,000円



シーボグG400J

シーボグ400Jをベースにさらなる高耐久化を実現。ハードな耐用を強いられる沖のイカ釣りなどのほか、大物釣りや電動ジギングなど、豊富な糸巻き量と合わせ幅広く使用できるモデルだ。左巻き仕様も用意。
◆自重=600g、ギア比6、最大ドラグ力16kg、メーカー希望本体価格123,000円

▶ダイブはイカ仕掛けも豊富。左から2番目が新製品「快適イカ仕掛けミラー11sリフレクト」、写真はプランコ6本ツノタイプ



▶田淵さんのセッティング。「船ベリイカマットFL500」に「スーパーリチウム12000WP」も持参、いずれも新製品だ



動画連動!



★当日の動画はダイブ「船最前線」よりご覧になれます。



82-155 ▲扱いやすいショートタイプで手返しアップ。138グラムの最軽量タイプ



82-175 ▲82調子でバランスに優れたオールラウンドタイプ。乗り感も抜群



91-165 ▲タイトな操作を可能にするテクニカルモデルで直結スルメにも最適

パワーの強さを見せつける。2投目以降はガクンと乗りが渋くなってきたが、今度は竿のポテンシャルが発揮される。落とし込みでの触り、小さな乗りをキヤッチして単発が多いものの確実に釣り上げていく。2人だけが絶好調の釣れっぷりだ。2時間ほど釣って、今度はヤリイカ狙いを告げられ、2人は11センチの仕掛けにチェンジ。船は小移動して平砂浦沖の水深180メートル前後を攻める。と、今度は富士村さんが新製品のプランコ仕掛けでヤリイカ

4杯掛けのロケットスタート。それを見て田淵さんは直結仕掛けからチェンジ、すぐに3杯掛を披露する。以後は徐々に乗り渋り。中小型の触りを確実に取って乗せていくシビアな展開になるが、メタリアの感度はひるまない。「あっ、触った!」「アレッ、掛かない」「渋いときでもなんらかのアプローチを見せるヤリイカに一喜一憂しながらしっかりと釣りを楽しんでる。終盤にもうひとやまあって、田淵さん4杯掛け、富士村さん3杯掛けのダブルヒットを達成したところで納竿の13時を迎えた。「どうです、今日の感想は」という田淵さんの問いかけに、「楽しすぎて、まだ帰りがたくな〜い」とだだをこねる富士村さんだった。



★第1投でスルメの8杯掛け。シーボグG400Jのパワーを見つけた



ヤリイカ 本格シーズンイン 最新タックルで 手軽に攻略



★富士村さんも5杯掛けてスタート



▶後半は渋いヤリイカの繊細な釣りを楽しむ
▶小さな乗りを逃さず着々と数をのばす
▶女性の手にフィットするゼロシートセンターグリップ搭載



★最新タックルでヤリイカ攻略。終始好調、最後の1投でもダブルヒットの多点掛け

田淵雅生、富士村彩花 ヤリ、スルメの混合戦を制す

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.89

ヤリイカ最前線

at 内房勝山港出船

最新ロッド、メタリアヤリイカで攻略

●例年どおりの水温に落ち着いて、ようやく各地のヤリイカが安定して釣れ出した。それではとばかりに繰り出したのが田淵雅生、富士村彩花のイカ好きアングラー。今回は新製品のタックル、仕掛けなどを持ち込んで、快適なイカ釣りを紹介する。



乗船したのは内房勝山の萬栄丸。周年、沖のイカを攻めるファンには名の通った船宿である。目下のところは洲ノ崎、白浜沖でスルメ交じりのヤリイカ狙いで、12月に入ってから釣果も安定し、連日ファンでにぎわっている。前情報によると、まずは洲ノ崎沖でスルメイカ、のち平砂浦沖でヤリイカメインに狙っているとのこと。となるとタックルや仕掛け選びに迷うものだが、「今回持参した竿はヤリもスルメもドンとこい、電動リールも仕掛けも十分過ぎるほどの製品

ばかりです」と田淵さん。とくに目を引いたのが発売されたばかりの最先端のイカ釣りロッド「メタリアヤリイカ」である。3種のアイテムの中から田淵さんはベテランらしく91-165のハイレスポンスタイプ、富士村さんは女性にも扱いやすい82-155を使用する。リールは田淵さんが「シーボグG400J」、富士村さんが「同400J」という最新の組み合わせである。6時に出船し、まずはスルメメインのことで田淵さんは18センチ、富士村さんはヤリイカも視野に入れて14センチの直結仕掛けを準備する。40分ほど走って水深170メートル前後の釣り場に到着し、底から15メートルまでの合図で釣り開始となる。2人は合図に遅れることなくスムーズに投入。オモリが着底したと同時に、「乗りました」と田淵さん。「乗った、乗った」とはしゃぐ富士村さん。見ると2人の竿は大きく曲がっている。まずは富士村さんが慣れた手つきで取り込みに入り、中型スルメを5杯。続いて田淵さんがたぐり始め、なんと8杯掛けの快挙。この間、電動リールは力強く巻き続け、